



最初にお読みください

CentreCOM® 8424XL/8424TX リリースノート

この度は、CentreCOM 8424XL/8424TX をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0005-10 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0005-13 Rev.K）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.7.9-02

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.7.9-01 から 2.7.9-02 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 始点 IP アドレスが 0.0.0.0 の ARP Request パケットを受信した際に、終点 IP アドレスを ARP キャッシュに登録していましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 2.7.9-02 には、以下の制限事項があります。

3.1 ファイルシステム

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ使用時、コンパクトフラッシュの空き容量がない状態で新しく設定スクリプトをコンパクトフラッシュに作成しようとすると、「Operation Successful」と表示されることがあります。なお、この状態でコンパクトフラッシュの内容を SHOW FILE コマンドまたは PC で確認すると、作成したファイルが存在するように見えますが、ファイルには何も記録されません。

3.2 認証サーバー

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

- 複数の IP インターフェース（IP アドレス）を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時（ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時）に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。
- RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。

3.3 アップロード・ダウンロード

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」


- TFTP によるアップロード時 (UPLOAD METHOD=TFTP)、IPv6 アドレスの指定ができません。
- ZMODEM によるファイル受信中 (LOAD METHOD=ZMODEM) にターミナルソフト側で送信をキャンセルすると、コマンドプロンプトに復帰しないことがあります。ターミナルソフトが Windows 付属のハイパーターミナルの場合、本現象は起こりません。

3.4 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

DESTINATION=NVS のログ出力先定義に対し、SET LOG OUTPUT コマンドで MESSAGES パラメーター (保存件数) を変更すると、すでに NVS 上に保存されていたメッセージがすべて消去されます。

3.5 スクリプト

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」

スクリプトで IF THEN ELSE 文を使用する際、比較対象文字列の長さが 32 文字以上の場合、スクリプトが正しく動作しません。31 文字以下の長さの比較対象文字列を使用してください。

3.6 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- イーサネット MIB の dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。
- イーサネット MIB の dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- 既に作成されているユーザーグループに対して SET SNMP GROUP コマンドで SECURITYLEVEL を変更することはできません。
- SNMP マネージャーと通信しているトランクポートのケーブルを抜くと、リンクダウントラップが送出されない場合があります。

3.7 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

本製品の IP アドレスを変更しても、SHOW NTP コマンドの「Host Address」欄 (NTP モジュールの使用している IP アドレス) が更新されません。これは表示だけの問題で動作には影響ありません。

3.8 非同期ポート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「非同期ポート」

- SET ASYN コマンドの PROMPT パラメーターでコマンドプロンプトの文字列を変更した後、「SHOW CONFIG DYNAMIC」を実行すると、プロンプト文字列がデフォルト設定に戻ります (SET ASYN コマンドの設定自体はダイナミックコンフィグ中に残っています)。

- 非同期ポート端末の画面あたりの行数をデフォルトの 21 またはそれ以上に設定した場合、SHOW IP ARP コマンドの結果が設定した値 +20 行分表示されます。

3.9 ターミナルサービス

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

3.10 ポートトランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- ポートトランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMPSPNOOPING コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
（「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します）
- CREATE SWITCH TRUNK コマンドの PORT パラメーターでトランクポートを指定した場合、指定ポートがマルチプル VLAN (Protected Port VLAN) の同一グループ所属であるかのチェックが行われません。これを回避するため、マルチプル VLAN とポートトランキングを併用するときは、先にトランクグループを作成してから、トランクグループをマルチプル VLAN に割り当ててください。
- 通常、トランクグループに属するポートは、同一 VLAN の所属で、同一のタグ設定（タグ付き・タグなし）にする必要がありますが、ポートをトランクグループに登録後、SET VLAN PORT コマンドによりポートごとのタグ付きまたはタグなしの変更を行うと、「Operation Successful」と表示され、変更が適用されます。VLAN のタグ付き・タグなしを変更する場合は、トランクグループに所属するすべてのポートについて同じ設定を行ってください。
- マルチプル VLAN (Protected Port VLAN) のアップリンクポートに設定したポートとクライアントポートに設定したポートを、同じトランクグループに所属させることができてしまいます。アップリンクポートとクライアントポートは同一のトランクグループに所属させないでください。
- 同じポートにポートトランキングとポートセキュリティを併用した場合、ポートセキュリティにより登録した MAC アドレスがトランクグループに移動しません。
- ポートトランキングとスパニングツリープロトコルを併用した場合、古い番号のポートがマスターポートになる場合があります。

3.11 LACP (IEEE 802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」

- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- トランクグループ内のポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートもリンクダウンするため通信が一時的に途絶えることがあります。

- LACP とポートセキュリティーを併用すると、LACP によるトランクポートの生成は行われません。

3.12 バーチャル LAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

通信中のポートを新しい VLAN に割り当てると、新旧の VID で登録された MAC アドレスが FDB に共存してしまい、VLAN を越えてユニキャストメッセージが通信されてしまう場合があります。この現象を回避するには、RESET SWITCH FDB コマンド、リンクダウン、エージングタイマーの発動によって FDB の MAC アドレスを削除するか、ポートが通信を行っていない状態で VLAN の割り当てを行ってください。

3.13 スパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」


ポートランキング（または LACP）とスパニングツリープロトコル（STP/RSTP）を併用する場合、トランクグループのマスターポートがリンクダウンすると、トランクグループ内の他のポートが正常にリンクしているにも関わらず Topology Change が発生します。

3.14 マルチプルスパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」 / 「Multiple STP」

- マルチプルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ミラーポートからも BPDU を送信します。
- SET MSTP コマンドの PROTOCOLVERSION パラメーターに RSTP を指定するとループが発生します。本製品の配下に RSTP 動作中のスイッチが存在している場合でも、PROTOCOLVERSION には RSTP を指定せず、デフォルト値の MSTP でご使用ください。
- マルチプルスパニングツリープロトコル（MSTP）を有効にすると、ランタイムコンフィグから DELETE VLAN コマンドの設定が削除されます。これを回避するには、再起動リガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させてください。

3.15 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「フォワーディングデータベース」

エラーパケットを受信したときも、送信元 MAC アドレスをフォワーディングデータベース（FDB）に登録します。

3.16 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- フレームタイプ 802.3 raw の IPX パケットにマッチさせるため、DSAP / SSAP = 0xFFFF の条件を持つフィルターエントリを作成した場合、このエントリはフレームタイプ Ethernet 2 の IPX パケットにもマッチしてしまいます。
- フレームフォーマットとして 802.2 LLC を指定したハードウェア IP フィルターに対し、ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで TYPE=0000 のエントリを作成しようとするとエラーになります。また、このとき表示されるエラーメッセージが適切ではありません。

3.17 ポート認証

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポートでは、Port Status が authorised でも IGMP Query パケットがフラッディングされません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Suppliant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。
- SNMP マネージャーで、dot1xAuthAuthControlledPortControl の情報を変更 (Set) した後、設定を保存すると、設定の変更が設定ファイルに反映されません。Authenticator ポートの状態を手動で変更する場合は、SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで指定してください。
- ゲスト VLAN 使用時、認証成功時に出力される SNMP トラップおよびログの AuthPreAuthVLAN (未認証時の所属 VLAN) に、ゲスト VLAN の VID ではなく、本来の所属 VLAN の VID がセットされます。
- 802.1X Multi-Suppliant モードの Authenticator ポート、または MAC ベース認証ポートに対して、SET PORTAUTH PORT コマンドで CONTROL パラメーターを AUTO (デフォルト) 以外に設定すると、ポート認証に関する SNMP トラップの出力が有効に設定されていても、該当ポートで SNMP トラップ / ログメッセージが出力されません。

3.18 IP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本バージョンでは、PURGE PING TOTALLY コマンドは未対応となっております。

3.19 IP インターフェース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP インターフェース」

- DHCP クライアント機能を有効から無効に変更しても (IP アドレスを固定設定しても)、該当インターフェースから DHCP サーバー宛での要求パケットが送信され続けることがあります。
- ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス (IP アドレス / ネットマスク) を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

3.20 ARP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

スタティック ARP エントリが登録されている IP インターフェースが、いったんダウンし、再度アップすると、FDB にスタティック登録されていた該当 MAC アドレスが削除されます。

3.21 ICMPv6

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「IPv6インターフェース」

ICMPv6 Packet Too Big メッセージを受信した際、そのメッセージによって通知された MTU の値がメモリー上の設定に動的に反映されます。

3.22 IGMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- IGMP 設定時、StartUp Query Count は本来 Robustness Variable と同じ値になるはずですが、Robustness Variable-1 となっています。

3.23 IGMP Snooping

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「IP」

IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMPSPNOOPING コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書、および「CentreCOM 8424XL/8424TX コマンドリファレンス 2.7 (Rev.K)」の補足事項と誤記訂正です。

4.1 スタンドキット「AT-STND-J01」（CentreCOM 8424TX のみ対象）

 **参照** 「取扱説明書」17 ページ


取扱説明書に記載がありませんが、CentreCOM 8424TX はスタンドキット「AT-STND-J01」に対応しています。

4.2 ポート帯域制限（送信レート）

 **参照** 「取扱説明書」45 ページ

バージョン 2.6.1 で、SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターで、ポート帯域制限の送信レートの設定を変更した場合、設定を有効にするために本製品を再起動する必要がなくなりました。

4.3 スイッチング

 **参照** 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

- 10/100Mbps ポートが 24 ポートリンクした状態で、拡張モジュールの 1000Mbps ポート（ポート 25）からフラディングパケットを送信すると、1000Mbps ポート（ポート 26）から送信されるパケットの転送率が下がる場合があります。
- 予約済マルチキャストパケットの処理で、送信元アドレスが、01-80-C2-00-00-00 ~ 01-80-C2-00-00-10 および 01-80-C2-00-00-20 ~ 01-80-C2-00-00-2F のパケットはフィルタリングされます。それ以外のパケットは、フラディングされます。

4.4 ループガード (LDF 検出)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

複数のポート間でブロードキャストパケットによるループが発生すると、ループ発生から検出までに時間がかかる場合があります。

SET SWITCH LOOPDETECTION コマンドの INTERVAL パラメーターで、LDF の送信間隔を最小値 (= 1 秒) に近い値に設定することを推奨します。

4.5 ICMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

VLAN A、B を作成し、それぞれの VLAN に別ネットワークのアドレスを指定 (VLAN A に 192.168.1.10、VLAN B に 192.168.1.20 指定、VLAN 内にルーターが存在) した場合には、VLAN A に所属する端末 C から VLAN B 宛に ICMP Request を送信すると、VLAN A と B は異なるネットワークに所属するにも関わらず、ルーターを介さずに、VLAN A から ICMP Reply が送信されます。またこの場合に、VLAN B から A への通信にハードウェアパケットフィルタを設定していても、この ICMP Reply はフィルタの条件にマッチしません。

これは、ICMP Reply を送信する際に、送信先アドレスを IP アドレスのみで検索し、そのアドレスの所属するインターフェースを送信元としているためです。

5 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SHOW EXCEPTION
SHOW DEBUG [STACK]
SHOW BUFFER [SCAN] [QUEUEPOINTERS]
SHOW FLASH FFS
CLEAR FLASH TOTALLY
DELETE NVS BLOCK [INDEX]
CLEAR NVS TOTALLY
SHOW FFILE VERIFY
SHOW FFILE [DEBUG]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
ADD USER [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK] [APPLENETWORK]
[APPLEZONE] [CALLINGNUMBE]
SET USER [MASK] [MTU] [NETMASK] [CBNUMBER] [IPXNETWORK]
[APPLENETWORK] [APPLEZONE] [CALLINGNUMBE] [TACRETRIES] [TACTIMEOUT]
ENABLE MAIL DEBUG
DISABLE MAIL DEBUG
RESET MAIL
SET MAIL SMTPSERVER=ipaddr
CREATE LOG OUTPUT [LOCAL]
SET ASYN [ENABLE] [TIMEOUT] [IDLETIMEOUT] [SHELLSERVER]
[TENTIMERVALU]
SET TTY IDLETIMEOUT

ENABLE SWITCH DEBUG
DISABLE SWITCH DEBUG
```

```
SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE SWITCH BIST
SHOW SWITCH BIST
SHOW SWITCH MEMORY
SET SWITCH SOCK
SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PHY
SHOW SWITCH PHY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [MODE={MASTER;SLAVE}] [IGMPACTION={DENY;REPLACE}]
[IGMPFILTER={NONE;filter-id}] [IGMPMAXGROUP={NONE;1..65535}]
[VLANSTATUSTRAP={ON;OFF}] [THRASHLIMIT={5..65536;NONE}]
[THRASHREFILL=4..65536]
SET SWITCH PORT SPEED={1000MHALF;1000MFAUTO;1000MHAUTO}
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE
ENABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
DISABLE PORTAUTH DEBUG={ALL;PACKET;STATE} PORT={port-list;ALL}
ENABLE RADIUS DEBUG
DISABLE RADIUS DEBUG
SHOW RADIUS DEBUG
ENABLE DHCP Snooping DEBUG
DISABLE DHCP Snooping DEBUG
RESET DHCP Snooping COUNTER
SHOW DHCP Snooping FILTER ALL
```

```
ENABLE VLAN DEBUG
DISABLE VLAN DEBUG
SHOW VLAN DEBUG
```

```
ENABLE STP DEBUG [PORT]
DISABLE STP DEBUG [PORT]
SHOW STP DEBUG
SHOW STP[={stp-name | ALL}] PORT={port-list;ALL} RSTPSTATE
```

```
DISABLE MSTP PORT
ENABLE MSTP PORT
```

```
ENABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS
DISABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS
```

```
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
ENABLE IP DEBUG
DISABLE IP DEBUG
SHOW IP DEBUG
SHOW PING DEBUG
PURGE PING TOTALLY
SHOW TRACE DEBUG
```


SET IP [FLOW] [ARPPWAITTIMEO]
SHOW IP FLOW
ENABLE TCP DEBUG
DISABLE TCP DEBUG
ENABLE IP ICMPREPLYMSG={ALL;NETUNREACH;HOSTUNREACH;REDIRECT}
DISABLE IP ICMPREPLYMSG={ALL;NETUNREACH;HOSTUNREACH;REDIRECT}
SHOW IP ICMPREPLTMSG
ENABLE IP [SPOOFCHECK]
DISABLE IP [SPOOFCHECK]
ADD IP INTERFACE IPADDRESS FRAGMENT
SET IP INTERFACE IPADDRESS FRAGMENT
ENABLE IP ROUTE DEBUG
DISABLE IP ROUTE DEBUG
SHOW IP ROUTE DUMP
SET IP DNS CACHE
SHOW IP DNS CACHE
ENABLE IP ARP [AGEPOLL]
DISABLE IP ARP [AGEPOLL]
SET IP ARPWAITTIMEOUT
SET IP ARP REFRESHARP
ENABLE PING POLL=1..100 DEBUG
DISABLE PING POLL=1..100 DEBU

ENABLE IP IGMP DEBUG
DISABLE IP IGMP DEBUG
SHOW IP IGMP DEBUG
CREATE IP IGMP DESTINATION
ADD IP IGMP DESTINATION
DELETE IP IGMP DESTINATION
DESTROY IP IGMP DESTINATION
ENABLE IP IGMP ALLGROUP
DISABLE IP IGMP ALLGROUP
ADD IGMP FILTER
CREATE IGMP FILTER
DELETE IGMP FILTER
DESTROY IGMP FILTER
SET IGMP FILTER
SHOW IGMP FILTER
ADD IGMP Snooping RouterAddress
DELETE IGMP Snooping RouterAddress
SET IGMP Snooping RouterMode
SHOW IGMP Snooping RouterAddress
SET IGMP Snooping RouterMode FastLeave

ENABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]
DISABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]

LOAD [SERVER=ip6add]

```
UPLOAD [SERVER=ip6add]  
SET LOADER [SERVER=ip6add]  
ADD USER RSO IP=ip6add  
DELETE USER RSO IP=ip6add  
ADD PING POLL IPADDRESS=ipv6add  
SET PING POLL [IPADDRESS=ipv6add]
```

```
ENABLE MLDSNOOPING DEBUG  
DISABLE MLDSNOOPING DEBUG  
SET MLDSNOOPING VLAN=(vlanname;1..4094;ALL} FASTLEAVE={ON;OFF;SINGLE;  
MULTIPLE}
```

```
ENABLE TEST INTERFACE  
DISABLE TEST INTERFACE  
SHOW TEST [INTERFACE]  
RESET TEST INTRFACE  
SHOW PKT  
SET PKT  
START PKT  
STOP PKT  
SHOW DEBUG [STACK]  
MODIFY  
DUMP
```

6 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8424XL/8424TX コマンドリファレンス 2.7 (Rev.K)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0005-13 Rev.K」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>